

# 算数

令和5年度 多摩市立聖ヶ丘小学校 授業改善推進プラン 教科名

算数科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて

**ア**知識及び技能

**イ**思考力、判断力、表現力など

数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を習得すること。

日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考えること。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	<p><b>ア</b>1位数と1位数との加法と、その逆の減法が身に付いていない。</p> <p><b>イ</b>数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたりすることを苦手としている。</p>	<p><b>ア</b>加法とその逆の減法の計算の基礎を身に付けるために、ブロックや数え棒を使って数の操作や、計算カードを使って繰り返し練習を行う。</p> <p><b>イ</b>計算の意味や計算の仕方を考えたりすることができるように、具体物や図、ブロックを用いて考える活動を行う。</p>	<p><b>ア</b>5月～7月</p> <p><b>イ</b>5月～</p>	<p><b>ア</b>具体物を使って数の操作や、数の合成・分解を繰り返したり、計算カードを使ったりすることで、加法減法の基礎的計算力が高まった。</p> <p><b>イ</b>位取り表を用いて、計算の意味や仕方を考え、手順を繰り返し唱えることによって、理解できる児童が増えた。</p>
第2学年	<p><b>ア</b>数を十や百を単位としてみるなど、数の相対的な大きさを捉えることが難しい。</p> <p><b>イ</b>時間の単位に着目し、時刻や時間を日常生活に生かすことを苦手としている。</p>	<p><b>ア</b>数の相対的な大きさを捉えられるように、ブロックや図を使って数の操作を繰り返し行う。</p> <p><b>イ</b>時刻や時間を日常生活に生かすことができるように、学習時計を活用したり、自分の日常生活を調べたりする活動を行う。</p>	<p><b>ア</b>4月～7月</p> <p><b>イ</b>7月～</p>	<p><b>ア</b>ブロックや数カード、位取り表、数直線などを活用し、数の相対的な大きさを捉えることができるようになってきた。</p> <p><b>イ</b>日常生活の中で時刻を表すことができる児童が増えてきた。さらに理解を深められるように継続して日常的に扱っていく。</p>
第3学年	<p><b>ア</b>長さや重さについて、適切な単位で表したり、およその見当を付けて、計器を適切に選んで測定したりすることを苦手としている。</p> <p><b>イ</b>計算の意味や計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりすることを苦手としている。</p>	<p><b>ア</b>適切な単位と計器の選択ができるように、実際に測定したり、単位を適切に選択したりする場面を設定する。</p> <p><b>イ</b>計算の仕方や意味、成り立つ性質を見いだすことができるように、具体物や図で考え、その結果を確かめたり、それを表現し伝え合ったりする活動をする。</p>	<p><b>ア</b>6月～11月</p> <p><b>イ</b>年間を通して</p>	<p><b>ア</b>巻き尺や秤を使い、実際に測定をしたことで、適切な単位を選べるようになってきた。また、タブレット端末などを用いた繰り返し学習により、習熟を図ることができてきた。</p> <p><b>イ</b>自分の考えを友達と伝え合い、意見を比較、検討していくことを通して、計算の仕方や意味、成り立つ性質について理解し、活用できるようになってきた。</p>
第4学年	<p><b>ア</b>わる数が1位数や2位数で、わられる数が2位数や3位数の場合の計算を苦手としている。</p> <p><b>イ</b>数量の関係に着目し、計算の仕方考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりすることを苦手としている。</p>	<p><b>ア</b>除法の計算が確実に身に付けられるように、授業の始めに復習問題に取り組む。課題が終わった児童からプリントなどに取り組み、習熟を図る。</p> <p><b>イ</b>計算の仕方考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりすることができるように、これまで身に付けてきた計算の意味や計算の仕方を利用して、桁数の多い計算についても、その計算の</p>	<p><b>ア</b>5月～</p> <p><b>イ</b>年間を通して</p>	<p><b>ア</b>授業の初めと終わりにミニテストを行い、除法の計算が身に付いた児童が増えてきた。確実に定着を図るために、プリントなどで繰り返し問題を解くことが必要である。</p> <p><b>イ</b>既習事項で学習した計算方法を活用しながら、計算ができるようになってきた。</p>

<p>第5学年</p>	<p>ア 小数の乗法及び除法の計算を苦手としている。</p> <p>イ 図形を構成する要素や図形間の関係に着目し、図形の性質や図形の計量について考えることを苦手としている。</p>	<p>仕方を発展的に考えられるようにする。</p> <p>ア 小数の乗法及び除法の計算ができるように、整数の場合と同じ関係や法則が成り立っていることを生かしながら、小数の乗法及び除法の計算を繰り返し行う。</p> <p>イ 図形の性質や図形の計量について考えることができるように、図形の構成の仕方やその性質を見だし論理的に説明したり、それを基に既習の基本図形を捉え直したり、日常の事象の考察に生かしたりすることを行う。</p>	<p>ア 6月</p> <p>イ 7月～</p>	<p>ア 小数の乗法は、プリントなどを活用したことで身に付いてきているが、除法については更に習熟させる必要がある。</p> <p>イ 既習事項を生かして新しい課題を解決できる児童が増えた。また、話型を活用して図形の特徴や求積方法を説明できる児童が増えた。</p>
<p>第6学年</p>	<p>ア 分数の乗法や除法の計算をすることや、図形の体積を求めることを苦手としている。</p> <p>イ 目的に応じて多様な表現方法を用いながら、数の表し方や計算の仕方を考えたり、説明したりすることを苦手としている。</p>	<p>ア 分数の乗法や除法の計算の仕方が理解できるように、整数の乗法及び除法から、小数の乗法及び除法へと拡張された乗数や除数の意味を適用できるようにする。</p> <p>図形の体積を求めることができるように、第5学年で学習した立方体、直方体の場合の体積の求め方を基にして、角柱及び円柱の体積も計算によって求められることを理解できるようにする。</p> <p>イ 目的に応じて多様な表現方法を用いながら、数の表し方や計算の仕方を考えたり、説明したりすることができるように、テープ図や数直線を活用して考えたり、考えたことを友達に説明したりすることを繰り返し行う。</p>	<p>ア 5月～</p> <p>イ 年間を通して</p>	<p>ア 整数の乗法や除法の意味から拡張し、性質を生かして分数の計算に活用することができた。直方体、立方体の体積の求め方を振り返り、既習事項を生かして、角柱や円柱の体積を求めることができてきた。</p> <p>イ 数直線や具体物を活用することで、自分の考えや思考の流れを整理しながら説明することができてきた。ロイロノートを使って、互いの考えを見合うなど、思考力を高めることにもつながった。</p>

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末などICTの効果的な活用について

【全学年】

<指導の個別化>

- デジタル教科書、検索機能、復習反復ソフト、作図ソフトなどから自分に合った方法を選び理解を深める。

<学習の個性化>

- 自分で設定した課題について、検索機能、作図ソフトを活用してものの見方を深めたり広げたりする。

<協働的な学び>

- 調べたことを共有機能、共同編集機能、コメント機能を活用して交流し、よりよい考えを生み出す。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫など、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

【全学年】

「問題の把握⇒めあて⇒自分の考え⇒みんなの考え⇒まとめ⇒練習問題⇒振り返り」の流れを統一し、毎時間同じ展開をする。

【1～2年】

授業の最後に何を学んだかを発表したり、ノートに書いたりする。

【3～6年】

単元ごとに、学んだことを文章に表現することを通して、既習した内容を振り返る。

